

6. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍 該当なし

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
須磨崎亮 酒井愛子 虫明聡太郎	2022年に欧米で流行した小児の原因不明の急性肝炎		小児内科2023 55(4)	東京医学社		2023	700-701

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Haruta, Kawada, et al.	Droplet digital PCR development for adenovirus load monitoring in children after hematopoietic stem cell transplantation.	J Mol Diagn.	in press		2023
須磨崎亮 酒井愛子 虫明聡太郎 近藤宏樹 乾あやの	原因不明の小児急性肝炎：流行状況、病因、診療上の工夫	肝臓2023	—	—	2023

7. 研究成果による特許権等の知的財産権の出願・登録状況  
(総括研究報告書、分担研究報告書の中に、書式に従って記入すること。)

該当なし

8. 健康危険情報

- ・研究の結果、得られた成果の中で健康危険情報（国民の生命、健康に重大な影響を及ぼす情報として厚生労働省に報告すべきものがある場合や、研究過程において健康危険情報を把握した場合には、国民の生命、健康に重大な影響を及ぼすと考えられる内容と理由を簡潔に記入するとともに、その情報源（研究成果、研究者名、学会発表名、雑誌等の詳細）について記述すること。
- ・既に厚生労働省に通報した健康危険情報であっても、本研究報告書の提出の時点において健康危険情報に該当すると判断されるものについては記述すること。
- ・研究分担者、研究協力者の把握した情報・意見等についても研究代表者がとりまとめ、一括して総括研究報告書に記入すること。
- ・なお、交付基準額等決定通知の添付文書において、健康危険情報を把握した際には、一定の書式で速やかに厚生労働省健康危機管理・災害対策室長まで通報していただくよう協力をお願いしているため、本件とともに留意すること。

感染症サーベイランス事業で本症の保健所届出症例数が漸増し、肝移植例や死亡例など重症例が出現していることが繰り返し報道された。

本研究の過程で、欧米とは異なる状況であることを把握したので、厚労省に連絡すると共に、一般に広報することに務めた。

ラジオ NIKKEI : 2022 年 11 月 14 日

(感染症 TODAY,小児の原因不明の急性肝障害)

日経メディカル:2022 年 06 月 15 日

(小児の急性肝炎、欧米は異常事態、日本も同様か見極めが必要)

日経メディカル:2023年1月11日

(小児急性肝炎に関する主治医からの症例相談に対応するサイトが開設)

朝日新聞:2022年12月7日朝刊

(原因不明の小児肝炎、国内では122人、学会が調査進める)

9. 厚生労働科学研究費における倫理審査及び利益相反の管理の状況に関する報告 (参考:別添6)
- ・「厚生労働科学研究費における倫理審査及び利益相反の管理の状況に関する報告について(平成26年4月14日科発0414第5号)」の別紙に定めるの様式の写しを、研究代表者分については総括研究報告書の後に、研究分担者分については分担研究報告書の後に、それぞれ添付すること。